

【次第】

- 1.校長挨拶
  - 2.各分掌より(教務部・生徒支援部・進路支援部・人権教育推進委員会)
  - 3.協議・意見交換
  - 4.会長より
  - 5.事務局より
- 

1.校長挨拶

3年は28日に162名が卒業します。2年生1月24~27日、3年ぶりに沖縄へ修学旅行に行き、大きなトラブルなく本部周辺で民泊し、無事終了。

2.各分掌より

生徒支援部から

行事がコロナ前の状況に戻り、すべての行事は3年ぶりにできた。来年度は6月に体育大会が開催される。

進路支援部から

昨年より、進学率、就職率は上がり、未定その他は減った。数値だけ見ると、いい状況である。

1, 2年次から進路意識を高め、知る機会、考える機会を増やしたいので、次年度以降、進路行事等を増やす予定。

総務部 重点目標 総括

広報として、ホームページをリニューアルし、情報を見つけやすいようにした。ブログは360件以上の更新、ホームページの閲覧数も増えた。ブログはポップな楽しい情報を上げるようにしていきたい。

コロナ前と同じように説明会を開催できたが、大東市の中学生が減っているため、説明会で訪れる生徒数も減っている。

ICT関係として、一人1台端末の利用が進められているが、本校では学校で保管して使う形になっている。さらに利用できるように、保管場所、教員の研修、使えるサービスの工夫を次年度検討する。

人権に関して

1~3年までのすべての講演、授業に関して、90%以上の「理解が深まった」という結果が出ている。人権問題への理解が深まったかどうかに関しても「理解が深まった」と94%が答えている。次年度以降は、日常的に大きく意識せずとも人権意識を高く持った生徒を育てていきたい。

### 3. 協議・意見交換

#### 校長

令和4年度の学校経営計画、学校評価について簡単に説明する。

めざす学校像は大きく野崎高校として変わったわけではないが、生徒指導から生徒支援に変わって支援というマインドをもって取り組んできた。コロナ対策、ICTの活用、新学習指導要領の対策を中間的な目標として出している。

《学校教育自己診断の分析として》

生徒向けと保護者向けともに70%以上の肯定的な回答があったが、50%以下の肯定率の項目が2つでできた。全体的に下がっているので、次年度以降検討する必要があるので、意見が欲しい。

前年度より大きく下がったのは、「授業が分かりやすい」「一人ひとり大切にされている」という本校の根幹にかかわる部分なので、改善する必要がある。

きめ細やかな進路指導がなされている、という部分について、3年生の保護者からは高い評価をもらっている。しかし、1年生の保護者からはマイナスになっている。早い段階からキャリア教育が必要。

学校全体でいろんな生徒の相談に乗れるように、外部人材を活用した研修も行っている。SC, SSW, CC, 通級の専門の先生にお願いして4回の教員研修を行った。

学校行事は今年はおおむね、予定通り行うことができた。修学旅行を含め、学校行事を行うと、生徒の生き生きとした表情、終わった後の担任とのやり取りとかをきくと、本校においては行事を行うことによって生徒は育つと感じる。次年度も充実した学校行事に取り組みたい。

コミュニケーションワークは年3回実施。茨田高校との機能統合において、茨田高校のコミュニケーションコースの引継ぎも込めて、ブラッシュアップしていく予定。

幼小保、近隣の大学など諸学校との連携も一定復活した。保育園児との交流、サッカー部の小学校中学校との連携ができている。

部活動活性化は重大な課題である。次年度は、緑風冠高校と2校で連携する合同部活動の予定。活性化につなげていきたい。

#### 委員

学校経営計画などは、数値で表せということが求められるので、厳しいところがあるが、数値だけではないと思っている。

70%以上、担任以外に相談できる教員がいるというのは、生徒から先生への信頼度は高いと思っている。生徒を大事にしている学校だと感じている。

野崎高校に入ってよかったという肯定的評価が高いのは、遅刻やその他のマイナスを踏まえても、光明がある。

校舎内の清掃が行き届いているという評価が半数以下とでているが、校舎内、体育館下トイレとかみたらきれいだと思う。

「生徒：分かる授業について」の部分が52.1%で「教員：私は授業改善に向けて意識的に取り組んでいる」が94%である。ここの差が教員と、生徒の意識が乖離している。

#### 委員

なぜ、定員割れが続いているのかを考えていかなければならないと思う。定員を持ち直していくためにはどんな工夫をしていくべきなのか。各分掌・各教員がそれぞれやっていることが学校全体としての有機的なつながりになって、変革すればよいと思う。

高校生の子どもたちにもう少し高い目標を設定して「ここまでできるはずだよ」ということも必要ではな

いのかとも思う。現状からもう一歩ではなく、高校水準はここだよ、と高い目標を示されたほうが良いのかもしれないという生徒もたくさんいるのではないかと思う。

#### 委員

検定、資格をのばしていけたらいいのになと思う。合格したら自信がついていいのではないか。幼稚園や中学校と交流することで、この先輩いいなというイメージを持ち、募集活動につながるという気はする。

令和5年度経営計画について。

#### 校長

めざす学校については変更していない。

中期目標はここ3年はコロナやICT活用といわれていたが、それは落ち着いてきて、新学習指導要領の対応、探究的な学び、観点的評価、わかる学習についてまとめている。

一人一人の進路の実現には変わらない。志願者数の減に伴って教員数の減もあるので、生徒の自主性、自分の進路は自分で切り開くということを指導したい。個々の多様化が進むなか、充実した学校生活を送れるように支援する。

人権教育を柱に他人を思いやれる生徒を育成していく。

地域連携は、今まで野崎高校が実践してきたことを地域の大学や企業と連携してしっかりと生徒を育てる学校づくりをしたい。

効果的な情報発信については、中学生が望む魅力とはなにかを含めながら情報発信をしていくようにしていきたい。

今年度から通級指導がはじまっている。次年度から本格実施、外部人材を活用しながら進めていく。あとは本年度と大きく変わった部分はない。

#### 委員

保護者側からすると、学校での雰囲気はなかなか伝わらない。誰かから聞いた話しか入らない。イメージが先行してしまう。野崎の怖いイメージが昔のものがずっと残っているのを変えていける方法があれば、希望する生徒が増えるのではないか。

長男は野崎が最高、と言っていたので次男もいく、となった。人が体験したことから聞いた情報がやっぱり重要だと思う。

次回7月中旬